

平成23年 第2回 日南町教育委員会 議事録

日時 平成23年2月10日 PM1:30~PM15:00

場所 日南町役場 第2会議室

出席者：立脇教育委員長 福田教育委員 長崎教育委員 井上教育委員 内田教育長

委員長)定刻となりましたので、ただ今から第2回の教育委員会を開催したいと思います。本日はこの後、町長との懇談がございます。日程も詰まっておりますので、スムーズな進行をお願い致します。それでは、日程2の報告事項に入りたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育長)1ページ、2ページに事業報告及び行事予定を載せております。3月は職員人事、新年度の予算等の関連で委員会を数回開催することになります。現段階で想定されるものを掲載しております。報告事項1ですが、3ページからになります。文化財保護審議会からの歴史資料の保存と日南町郷土資料館のあり方についての答申を1月29日にいただいております。答申につきましては、委員の皆さまに事前に配布しておりますので、熟読していただいているかと思っておりますので、要点のみお伝えしたいと思います。審議の経過において、矢戸でございます資料館がかなり湿気をもっております。早急に新しい施設に移行すべきという基本認識のもとに、今回の審議をしていただきました。資料館の資料内容や現施設の状態を考慮して、新施設は既設の小学校の空き校舎を利用するという事で議論を重ねました。結論的には石見西小学校の空き教室を利用する答申内容になっています。管理運営につきましても、博物館法によります保存という形態の資料館にし、展示は不特定多数の方が自由に入れることから、現状、資料館の利用が年間1~2人であるため、不特定多数の方が利用するという事は考えなくてもいいだろうという結論に至りました。したがって、保存をメインとしたリニューアルで対応願いたいと答申をいただきました。併せて歴史資料につきましては、基本的には保存すべきということであります。現在、町内にある、埋もれている資料につきましては、掘り起こしを考えていくべきということと、日南町にあります文化財の保存の方法ですとか手入れの仕方などの講座を開いて文化財に対する基本的な認識を深めていただく目的のソフト的な事業を考慮せよということをしていただいております。8ページ9ページに答申内容を掲載しております。あと付属資料を添付しております。答申内容からいきますと、18ページの配置図の中で2階部分はすべて、1階部分は保健室から理科準備室までの間を専用スペースとして使っていくことを想定しております。音楽室につきましては、中石見の老人クラブの方から会議室として活用したいという要望が出ております。今後、汎用性のある施設として、石見の地域の方だけでなく町民の方が使える施設としていくことを考えております。なおこの答申をいただき、平成23年度当初予算につきましては、必要なものについて予算計上しております。町長のヒアリングも終わりまして、答申の内容を尊重し望む方向になっております。以上報告でございます。

委員長) はい。1の文化財保護審議会については事前に資料をいただいておりますので、改めて不明な点等はないかと思いますが、お気づきの点につきましてご意見が頂ければと思います。質疑がないようですので、次に移らせていただきます。

教育長) 報告事項の2に移ります。2010年度末人事異動に関する要求についてですが、1月27日に鳥取県教職員組合西部支部日南部会長と副会長が面会にこられまして、19ページの要求書を提出されました。この要求書の回答につきましては、私の方で直接組合役員さんの方に回答したいと思っております。特別教育委員会におはかりする内容については無いかと思っておりますので、ご了解できればと思います。

委員長) これは、例年この時期に行われる要求でありまして、昨年までは教育長と私も同席して対応しておりました。内容について、無理な要求もなく混乱する内容は無かったかと思えます。今年は教育長に一任するという事で皆さんに了解してもらいたいと思いません。

教育長) もう1点報告させていただきたいと思えます。前回の委員会において全国の学力学習状況調査への取り組みで小学校、中学校ともにこちらからは手を挙げて実施はしない、しかし抽出に当たれば実施するという事で協議頂きました。これにつきまして、県教委のほうから平成23年度は日南中学校について抽出された旨の連絡がありました。したがって、日南中学校の方は対応するという事になりますが、それを受けて地教委の方で検討したところでございますが、標準学力・学習状況調査は毎年実施しておりますが、全国学力学習状況調査につきましては、小6と中3のみ実施ということで定点調査になります。全くしないということでありましたら、それでいいと思えますが、中学校3年生が対象となるということであるなら、積極的に小学校6年生につきましても実施すべきではないかと思っております。子どもたちの学力を定点的にデータとして活用することはどうですかと小学校長に検討していただきましたところ、実施したい旨の回答をいただきました。小学校6年につきましては希望実施ということで、県教委に回答したところです。従いまして、平成23年度は全国学力学習状況調査につきましては中学校3年小学校6年ともに実施することとなりましたので、ご報告いたします。

委員長) この件につきましては、委員の皆さまにはご協議いただいて現場の意見を尊重して全国学力学習状況調査は希望して実施はしないということになっていましたが、中学校の方が抽出校に該当して、改めて小学校全体の意見を集約した結果、先ほど教育長から説明のあったとおり、小中学校ともに実施するという事になりました。委員の皆さまにもご理解いただきたいと思います。ご意見があればお願い致します。

委員)ここ数年、この調査については消極的な状況ですが、来年度について小学校については希望をして行うといった積極的な状況になったわけですが、その変化はどのあたりにあったのでしょうか。

教育長)この調査はデータ取得の調査でございますので、複数回データを取ることで、状況が詳しく把握することができるわけでございますので、そのような認識の中でこうした結論が出たと思っております。

委員長)教育長の話の経緯にもありましたが、小学校全体の意見を集約したものであることをご認識していただければと思います。それでは、3の議事に移ります。日程第1議案第3号についてお願い致します。

教育長)委員長、出来れば議案第3号、議案第4号関連がございますので、一括上程させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

委員長)はい。了承いたしました。

教育長)それでは、議案第3号平成22年度教育費3月補正(第8号)予算についてと議案第4号平成23年度教育費予算について併せて説明させていただきます。詳細につきましては、事務局から説明いたします。

事務局)それでは、3号の方から説明いたします。22ページの方をご覧ください。主だったものを説明させていただきます。3月補正は年度末の精査ということもありますので、不用額が出ているところもございます。それでは4段目をご覧ください。育英事業費でございますが、2,230千円の増額としております。これは一括償還がございまして収入が増えるものです。続いて小学校費学校管理運営事務でございますが、備考に書いておりますがバキュームクリーナーの導入ということで増額の計上をしております。続いて就学奨励事業ですが、中途に6名ほど認定していただいております。それに伴う増額となっております。続いて中学校費学校管理運営事務でございますが、生徒の机・椅子の更新を行うようにしております。施設営繕改良でございますが、中学校の体育館のトイレが暗く狭いということで、それを解消するためにリニューアルしたいと考えております。それから美術館の方でございますが、館内のクロスの張り替えといった修繕を予定しております。最後に遺跡詳細分布調査でございますが、複数箇所の遺跡調査を行う予定でございましたが、試掘調査をした結果本調査が不用になった、また、県の事業の遅れで本年度着手しなかったものなどを精査した結果17,650千円の減額としております。総額で補正前4

74,330千円ございますが、18,701千円の減額し補正後455,629千円としたいと思っております。24ページから29ページにつきましては、各事業の詳細についての資料となります。31ページからは平成23年度教育費の予算の概要を載せております。こちらの方をご説明いたします。教育総務費事務局一般管理事務でございますが、今年度で指導主事の任期が切れます。来年度からは町で指導主事を2名派遣という形でなく町職員として計上しております。続いて英語指導助手配置事業でございますが、来年度からは国際交流員ということで新たな人をお願いしたいと思っております。続いて生き抜く力育成事業でございます。これまでは学力向上という事業名でしたが、事業名の変更を行っております。内容としましては、とっとり学力向上プロジェクト、勉強がんばろう、学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業これは学校支援地域本部事業と放課後子ども教室を併せた事業に来年度から変わりますので名称を変えております。来年度新たにスクラム教育事業を取り組みますので、こちらの事業に入れております。これらの事業については後ほど詳細について説明させていただきたいと思っております。これらの事業を束ねまして、日南町の子供が社会に出て生き抜く力を身につけるために保育園から中学3年まで一貫した教育をしようということで、学力だけでなく本当の生き抜く力ということも含めてこの事業で行いたいと思っております。それから小学校費の方でございますが、教育振興費の学習指導事務についてですが、来年度教科書の改訂がございますので指導書を導入することになりますので増額としております。中学校費でございますが、前年比4,771千円の増額となっておりますが、燃料費等の精査と中学校を耐震補強した時に蛍光灯も併せて取り換えておりますが、その時に蛍光灯の安定器にPCBが含まれておりまして、その処分費4,410千円が含まれております。32ページになりますが、社会教育費生涯教育総合推進事業についてですが、社会教育主事育成としまして2,616千円計上しております。町の職員ですと定期的な人事異動がございますので社会教育専属で雇用したいと考えております。先ほど答申の説明がありましたが郷土資料館移転改修の費用22,715千円計上しております。続いて33ページになります。図書館管理運営事業でございますが現行3人で図書館の管理運営を行っておりますが、小中学校の学校図書を含めて3人の職員で行い学校図書の充実を図りたいと思っております。続いて美術館ですが来年度の特徴的な事業といたしましては、来年度鳥取県でまんがサミットが開催されます。そのイベントで河上出身の長谷川洋さんの関係イベントを開催します。それと日南緒美術館の名誉館長の足羽俊夫さんが渡仏50年ということで記念のイベントを開催したいと考えております。主だったところを申しあげまして、総額で前年度335,617千円で今年度が397,555千円の61,938千円の増額となります。それとここには掲載していませんが、鳥取県の方でLEDの街灯照明の補助金をつけるということで、小中学校にLEDの街灯を設置する予定にしております。以上でございます。

教育長) 今、室長が申し上げましたけれども現時点での議案の上程ですけれども、3月定

例会までの間に変更等があるかもしれないことをお含みください。

委員長) 今説明を受けたわけですが、ご質疑ございませんでしょうか。

委員) 指導主事の配置について2名ということですが、どのような役目を考えておられるのでしょうか。

教育長) 行政職員だけの地教委ということよりも、教員経験をもつ指導主事というのは特に学校教育において効果のある動きであったと思っております。加えて日南町は小中一貫、保小中の連携に全力投球をしているところでございます。学校についても一致した考え方になってきております。これらを運営していくためには現場だけではいけません。したがって地教委に係る責任、支援体制というのは十分とる必要があります。小学校、中学校経験者を1名ずつ地教委に配置して、保小中連携のカリキュラムを作り進捗状況について十分な支援を行っていきたいと考えております。人件費については全額町がみることとなりますけれども、考え方によっては日南町の職員が減少傾向にあります。そのうえで地教委として現場の職員を配置し特に学校教育の強化を図っていくことは日南町の喫緊の課題を解決するための手段となります。ご了解願いたいと思います。

委員長) 今、説明のありましたとおり保小中の一体となった教育を目指す、さらに推進するための配置という教育委員会の姿勢を人事にあらわしたものとご理解願いたいと思います。

委員) このことについて良いことだと思います。配置は4月からですね。

教育長) はい。そうです。

委員) 人材について、取り組みとして大事な時期になりますので、是非良い人材を配置願いたいと思います。

委員長) 先ほど事務局の方から補足説明がございましたが、スクラム教育について説明をお願い致します。

教育長) はい。予算資料の31ページ事務局費の生き抜く力育成事業を挙げております。予算額11,380千円になります。お手元に別紙資料を付けておりますので、こちらで説明させていただきます。平成22年度までは県からの交付金事業であります、勉強がんばろうキャンペーン事業、とっとり学力向上プロジェクト事業いずれも約2,000千円の事業費で行っております。併せて、学校支援地域本部事業そして放課後子ども教室の事

業、これらは文科省の補助として2/3の補助率となっております。実質4つの事業を行ってきております。新聞等でご存知かと思いますが、県教委の方で戦略政策事業として平成23年度未来を拓くスクラム教育推進事業を実施することとなりました。これは1,000千円の事業費全額補助となります。併せて、この事業実施するにあたり加配教員2名を配置することになっております。この事業を日南町においてはこの事業をメインに考え保小中連携という大きな流れを実施していく旨を県教委に伝えました。詳細については、資料をみていただければわかると思いますし、これまで幾度となく議論してきた内容ですのでご理解していただければと思います。各補助金を活用し無駄のない取り組みをしたいと考えております。生き抜く力の育成というのは、イコール地域に生きがいを求め地域の力となりうる人づくりということで、交付金事業においても同じような考え方でございますので、これまでお話ししましたように事業実施していきたいと思っております。

委員長)今の説明でおわかりいただけたかと思いますが、大体この構想は新聞でも発表にもなりましたので、ご理解いただけるのではないかと思います。  
他にご質問はございませんか。

委員)中学校費の生徒派遣費についてどのような内容ですか。

事務局)生徒派遣費についてですが、日南中学校のソフトテニスは全国レベルです。また、冬季間のスキーについても全国レベルです。これらを含め、例年の状況が実績として出てきていますので、それらを基に金額を計上しております。

教育長)補足しますと、本来であれば大会別に積算しますが、恒常的に支出しております。それだけ活動が盛んなわけですが、数年前から大枠を決めてその中で運用をとという形になって来ています。

委員)ふる里まつりについてですが、実際をみると教育委員会の事業なのかと思うところがありますが、町の中でその辺りの議論はありますか。

教育長)そういう議論はあります。ふる里まつりは、文化系と産業系に分けることができると思います。ふる里まつりに加えて最近食のバザールという産業系のイベントが毎月でもと計画されています。文化系の方では例えば日南の四季という伝統文化の発表等がございます。議論の中で私が申し上げているのは、ふる里まつりの文化系と芸能系を一つにして祭典を行ったらどうかと話をしています。産業系は産業でまとめてすべきではないかと思っています。文化系は当然教育委員会が主体となつてべきで、産業系は産業の部局がすべきではないかと。一緒にすることによっての相乗効果は見込めますが、人数ではな

く中身、内容だと思っています。

委員)事務局の職員も減ってきています。その辺りを切り分けて事業数が教育委員会は多いわけで、負担を軽くすることで他の仕事、社会教育の本来の仕事に手が回るのではないのでしょうか。

委員長)他にはございませんか。

委員長)はい。ありがとうございました。そうしますと、すべての議案が終了いたしましたので、本日は終了したいと思います。ありがとうございました。